

# 地域とともにある荒尾海陽中学校

## 基本情報

### 学校名

荒尾海陽中学校

### 児童/生徒数

510名

### 学校運営協議会

令和7年5月21日 設置

### 委員構成

社会教育主事補  
荒尾地区協議会会長  
主任児童委員  
民生委員代表  
地域住民代表  
荒尾市教育委員  
PTA関係  
地域学校協働活動推進員  
主任児童委員  
校区小学校長代表  
校長など

### 会議回数（令和7年度）

5回

## 背景・取組概要

本校の学校目標である「夢の実現をめざし、郷土に誇りを持つ生徒の育成」を実現するために、学校運営協議会の推進や家庭や地域との連携を図りながら、地域とともにある学校づくりを実践している。また、保護者、地域の意見を生徒たちに直接届け、生徒主体の学校づくり、生徒たちと大人が力を合わせ協働する地域づくりを目指している。

## 工夫・ポイント・特徴的な取組

### ◆学校運営協議会

年に5回の開催を行う。本年度、もっとも力を入れた地域ボランティアの実施（10月10日）前後には、運営協議会のメンバーの方々の意見を取り入れ、当日の活動に活かすことができた。また、授業参観や学校評価など、学校運営にも積極的に参加していただいた。

### ◆地域学校協働活動

地域の方々に協力していただき、生徒の教育活動を支えていただいた。写真にあるように退職校長会の先生方（のべ20名）による受験生の面接指導の他に2年生に向けた職業講話（10名）、校内席書大会では全学級に指導していただいた。（12名）

### ◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

10月10日に地域貢献ボランティア活動を行った。（参加生徒数120名）校区の中の清掃活動を行った。活動場所に関しては学校運営協議会で適切な場所を熟議を重ね、11か所に絞った。各場所で、ペットボトルや空き缶、プラスチック片などを拾い、汗を流した。



受験生に向けての面接指導の様子



学校運営協議会で発表する生徒会の生徒



地域貢献ボランティアで海岸清掃する生徒

## 成果・効果

- 年5回の学校運営協議会では、学校の現状（状況）をお伝えし、意見をいただきながら、学校運営に生かすことができた。
- 学校や生徒たちの力だけでは困難な企画・運営もあるので、学校運営協議会の方々の経験や知恵をいただきながら、地域と共にある学校づくりを体現することができた。
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進では、地域の方々の思いを生徒たちが知ることで、生徒たちの地域に対する愛情を育むことができた。

## 課題/展望等

- 地域学校協働活動は、もっと事前の打ち合わせを行うことで、さらにスムーズな会の運営ができたのではないかと思います。校内席書大会や面接練習での先生方の紹介等も含めて、課題が残る部分もあった。
- 来年度も継続して地域貢献活動を行うことが大切であり、さらに地域とともにある学校づくりへとつなげていくことが大事だと思う。

# 自立型人間の育成～仲間とつながる、地域とつながる、未来とつながる～

## 基本情報

### 学校名

荒尾市立荒尾第三中学校

### 児童/生徒数

557名

### 学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

### 委員構成

地域学校協働活動推進員  
各地区連絡会代表  
民生委員  
PTA関係者  
主任児童員  
元校長  
校長・教頭・主幹教諭  
13名

### 会議回数（令和7年度）

年間5回

## 背景・取組概要

三中校区の地域住民、本校生徒の保護者ならびに学識経験者等の学校運営への参画を進め、学校と地域住民との信頼関係を深めるとともに、生徒のより豊かな人間性を育むことを目的に本組織がつけられた。さらに、子供が様々な大人と交流する機会を得ることは、子供たちの将来への希望を抱く一助になると考えた。

→**子供と大人が力を合わせて協働し、活気ある学校や地域づくりを目指す。**

## 工夫・ポイント・特徴的な取組

### ◆学校運営協議会

年間5回にわたり、学校教育活動のさらなる充実と発展をめざし毎回熟議を重ねた。今年度は第2回から第4回にかけて、生徒会執行部との意見交換を中心に会議を行った。議題となるテーマについては、すべて生徒会執行部が事前に企画立案した。

第2回の会議では「男女の髪型について」をテーマに、活発な熟議を展開した。学校運営協議会(大人)の意見と生徒の意見が交わされ、この会議に付随する形で校則の見直し(髪型について)へと発展していった。

第3・4回では、「いま三中に必要な力」「あったらいいなと思う行事」「地域で困っていることや中学生がお手伝いできることはないか」といったお題を、さいころトーク形式で意見交換を行った。

本年度最後の第5回では、次年度の学校教育目標をつくることをイメージしながら、「次年度への志向～生徒に身に付けてほしい資質・能力は何か～」をテーマに、ワークショップ形式で生徒会と学校運営協議会で意見を出し合った。

### ◆地域学校協働活動

地域学校協働活動推進員は、席書大会指導ボランティアの参加者呼びかけや調整など、学校との接続に中心的に尽力していただいている。また職業講話の人選などに関して、広い視点に立って人材確保に努めていただいている。

### ◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

地域学校協働活動推進員(2名)が、学校運営協議会委員にも所属しており、協議内容の具現化を様々な形で取り入れていただいている。



## 成果・効果

○緑ヶ丘小や平井小への学習ボランティア等は、学校運営協議会委員からの提案で広がり定着しつつある。生徒も意欲的に参加している。

○地域の方と接する(交流する)機会を得ることは、地域に対する誇りを持つとともに、地域への愛着も高まり、将来、地域(地元)への貢献を考える子供が増えるといった効果が期待される。

## 課題/展望等

○指標1・2の経年比較を分析してみると、中長期的な視点で継続的に取り組んでいく必要がある。

○今後は、学校運営協議会に参加する生徒会のメンバーも固定せず、委員長や副委員長など幅広く参加させ、「みんなが創り手」という意識を高めていきたいと考えている。

指標1「人の役に立つ人間になりたい」(肯定的な回答)

R5 98.6%

R6 97.0%

R7 96.8%

指標2「地域や社会をよくするために何かしてみたい」(肯定的な回答)

R5 63.6%

R6 79.5%

R7 66.9%

# 磨き合う～自分を高める挑戦をする～

## 基本情報

### 学校名

荒尾市立荒尾第四中学校

### 児童/生徒数

213名

### 学校運営協議会

令和4年6月6日 設置

### 委員構成

地域学校協働活動推進員  
保護者・PTA関係者  
民生児童委  
主任児童委員  
八幡地区協議会  
府本地区協議会  
社会体育推進員  
小学校校長 など 12名

### 会議回数（令和7年度）

4回

## 背景・取組概要

本校では、変化の激しい社会を生きていく子どもたちが多様な考えを持ち、主体的に行動できる力を育成したいと考えている。そのために、子どもたちが学校だけでなく地域で学ぶ機会を持つとともに、また様々な世代と触れ合う場を提供する必要があった。

## 工夫・ポイント・特徴的な取組

### ◆学校運営協議会

今年度は、校則改変を中心に取り組んだ。その中で、意見交換会を設定し、学校運営協議会の委員と生徒会の代表者が熟議を重ねることができた。その結果、生徒が主体的に校則改変に関する取組を進めることができています。

### ◆地域学校協働活動

強歩大会や席書大会、受験対策の面接指導等のボランティア活動等の学校行事に関して地域人材を活用している。

### ◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

地域学校協働推進員のメンバーが学校運営協議会委員となり、学校運営協議会において教員や生徒との熟議の場に参加している。



## 成果・効果

令和7年度の学校評価(4段階評価)において「学校は、地域の方による面接指導や席書大会などの活動を積極的に行っている。」という項目で生徒の回答の平均値が3.6と高い結果となった。

## 課題/展望等

地域人材の継続的な確保や活動の担い手の育成が課題である。今後は、生徒が地域で学ぶ機会をさらに増やすとともに、生徒主体の取組を充実させ、学校全体で地域協働活動を一層深めていく。